

第3章 第2次計画の評価と課題

1 第2次計画の評価

第2次計画では、「心身の健康の増進、豊かな人間形成及び明るい家庭づくり」をめざし、4つの重点課題と取り組みの柱により、22の指標36の数値目標を設定しました。

「楽農生活交流人口数」「地域と連携した食育活動に取り組む組織・団体」「市町食育推進計画の策定」等、8数値目標については目標を達成し、「朝食をほぼ毎日食べる児童生徒数」「食育の意義を理解し、実践している人」等、15数値目標については改善がみられました。

しかし、「朝食をほぼ毎日食べる人」「毎日、家族や友人と楽しく食事をする人」等、13数値目標については、十分な進捗がみられませんでした。

(1) 子育て世代の食育力の強化（20～30歳代）

行政、いずみ会や栄養士会等の地域団体・関係団体、ひょうご“食の健康”運動等において、大学生や子育て世代を対象に、基本的な生活習慣、食習慣を身につけるための講習会、栄養バランスを考えた日本型食生活の実践のための活動について取り組みました。

その結果、男女ともに食事づくりへの参加は増加しているものの、朝食をほぼ毎日食べる人、地域の行事食や郷土料理を知っている人、作ることができる人は、第2次計画策定時と比較して進捗が見られず課題が残りました。

(2) 未来を担う世代への食育推進（乳幼児期、学童期、思春期）

幼児や児童生徒を対象に、いずみ会や婦人会、農協や漁連等の地域団体・関係団体が行う食に関する体験活動の充実、学校における組織的・計画的な食育活動の成果により、朝食をほぼ毎日食べる、適正体重の維持等、児童生徒の身体状況や食行動は改善されつつあり、子どもへの食育が着実に進んでいます。

(3) 地産地消による食育の推進

直売所の魅力向上を図る整備促進や直売所マップの作成・配布による情報発信に取り組んだ結果、直売所等の利用者、地元や県内でとれた農林水産物を買っている人は増えています。

併せて、県産農林水産物を利用した学校給食向けの献立の提案や、学校に出向いての出前授業を実施するとともに、児童生徒が生産者から直接指導を受けながら農業体験を行う等、県産県消（地産地消）による食育は着実に進んでいます。

(4) 地域における食育活動の連携強化

すべての市町で食育推進計画が策定された結果、より住民に身近な市町において主体的・計画的な食育推進体制が整備されました。また、地域と連携した食育活動に取り組む組織・団体数、家庭・地域と連携した取り組みを行った学校数は増加しており、県民の食育活

動を支える体制が充実しました。

しかし、食育への関心については増加がみられないことから、なお一層、食育への関心を高める必要があります。

2 取り組むべき課題

県民が生涯にわたり心身の健康の増進と豊かな人間性を育むために、子どもから高齢者まで、切れ目なく食育を推進することが大切です。

特に、若い世代は、食に関する知識や意識、実践の面で他の世代より課題が多く、引き続き、大学生も含めた18～30歳代の若い世代を重点化して取り組む必要があります。

また、子どもの身体状況や食行動は改善されつつありますが、子どもへの食育は健全な心身と豊かな人間性を育てていく基礎となるものであり、子どもの成長や発達に合わせた継続的な取り組みが引き続き必要です。

新たな課題として、高齢者世帯、ひとり親世帯が増加する等、家庭の状況が多様化し、こうした家庭の生活環境が食育の実践に与える影響についても考慮する必要性が高まっています。加えて、少子高齢化が急速に進展する中で、健康寿命の延伸や健康格差の縮小に向け、食育の視点を踏まえた取り組みの強化が必要です。

県民それぞれが食育を生活の中で定着させるためには、地域の食や「農」にふれあい理解を深める機会づくりをより一層推進するとともに、食育に関わる様々な関係者の実践と連携を強化し、継続的な活動ができる推進体制の更なる充実が必要です。

□重点課題

- 若い世代の食育力の強化
- 多様な暮らし方を支援するための食育推進
- 食や「農」への理解を促進するための食育推進
- 食育活動を充実するための連携強化、推進体制の充実

○ 「食育推進計画（第2次）」指標と目標値の評価

柱	指 標	計画策定時の 現状値	目標値	直近値	評価
健全な食生活の実践	(幼児1～5歳)	93.7%(H20)	100%	93.2%(H27)	▲
	(児童・生徒6～14歳)	92.6%(H20)	100%	93.4%(H27) ※2	○
	(15～19歳)	78.9%(H20)	87%以上	85.6%(H27)	○
	朝食を食べる人の割合の増加 (20歳代男性)	64.7%(H20) ※1	71%以上	51.4%(H27)	▲
	(20歳代女性)	70.0%(H20)	77%以上	69.2%(H27) ※3	▲
	(30歳代男性)	66.4%(H20)	73%以上	66.8%(H27)	○
	(30歳代女性)	82.0%(H20)	90%以上	82.0%(H27)	▲
	毎日、家族や友人と楽しく食事をする人の割合の増加 (1歳以上)	86.4%(H20) ※1	95%以上	65%(H27) ※2※3	▲
	食事のあいさつ(いただきます・ごちそうさま)ができる幼児の割合の増加 (1～5歳)	72.8%(H20) ※1	100%	73.9%(H27) ※2	○
	(幼児1～5歳)	55.1%(H20)	70%以上	50.4%(H27)	▲
食事づくり(買物・調理・後片づけ)に参加する人の割合の増加	(児童・生徒6～14歳)	75.7%(H20) ※1	90%以上	65.6%(H27) ※2	▲
	(15歳以上男性)	26.7%(H20)	40%以上	67.5%(H27) ※3	◎
	(15歳以上女性)	81.7%(H20)	95%以上	90.2%(H27)	○
	(幼児4～5歳)	97.7%(H23) ※4	98%以上	94.0%(H28) ※4	▲
適正体重を達成、維持している人の割合の増加	(児童6～11歳)	92.4%(H23)	93%以上	92.7%(H28)	○
	(30～40歳代男性)	66.6%(H20)	70%以上	68.7%(H28)	○
	(30～40歳代女性)	76.8%(H20) ※1	79%以上	74.7%(H28) ※1	▲
	(20歳代女性・やせの減少)	25.3%(H20)	23%以下	21.7%(H28)	◎
腹囲が男性85cm、女性90cm以上の人の割合の減少(20歳以上)	29.1%(H20) ※1	26%以下	24.8%(H28) ※1	◎	
災害に備え、非常用食料などを備蓄している世帯の割合の増加(世帯)	41.9%(H20) ※1	60%以上	61.7%(H27) ※3	◎	
「農」と食の営みを支える活動の推進	楽農生活交流人口数の増加	1,081万人/年(H22) ※5	1,100万人/年	1,153万人/年(H27) ※5	◎
	兵庫県認証食品流通割合(生鮮)の増加	25.6%(H22) ※6	36%	27.7%(H27) ※6	○
	直売所等利用者数の増加	18,949千人/年(H22) ※5	25,000千人/年	23,842千人/年(H27) ※5	○
ひょうごの食文化の継承と創造	地域の行事食、郷土料理を知っている人、作ることができる人の割合の増加 (20歳以上)	(知っている人) 64.9%(H23) ※7 (作ることができる人) 27.1%(H23)	80%以上 30%以上	41.4%(H27) ※3 18.4%(H27)	▲ ▲
	地元や県内でとれた農林水産物を買っている人の割合の増加	58.0%(H22) ※8	70%以上	71.7%(H27) ※9	◎
	兵庫県認証食品の加工品数の増加	597品目(H22) ※6	885品目	842品目(H27) ※6	○

柱	指 標	計画策定時の 現状値	目 標 値	直 近 値	評 価
食育活動の推進と連携体制の強化	食育に関心のある人の割合の増加(20歳以上)	89.4%(H23) ※7	90%以上	86.8%(H27) ※3	▲
	食育の意義を理解し、食育活動を実践している人の割合の増加(20歳以上)	40.3%(H23) ※7	60%以上	47.4%(H27) ※3	○
	公立小中特別支援学校職員の食に関する研修の受講率の増加	24.7%(H22) ※10	50%以上	26.5%(H27) ※10	○
	学校給食での県産品使用割合の増加	30.0%(H22) ※10	35.0%	29.7%(H27) ※10	▲
	食に関する指導において体験活動(栽培活動など)を実施する学校数(のべ数)の増加	3,179校(H22) ※10	4,500校	4,310校(H27) ※10	○
	家庭・地域と連携した取組を行った学校数(のべ数)の増加	3,280校(H22) ※10	4,500校	3,718校(H27) ※10	○
	ひょうご“食の健康”運動に取り組む食の健康協力店の店舗数の増加	6,389店(H22) ※11	8,000店	7,947店(H28) ※11	○
	地域と連携した食育活動に取り組む組織・団体の増加	82団体(H22) ※11	200団体	360団体(H27) ※11	◎
	市町の食育推進計画の策定率の増加	73.2%(H22) ※12	100%	100%(H27) ※12	◎

【出典】

- ※1 健康食生活実態調査 ※2 子ども・若い世代の食生活実態アンケート ※3 県民意識調査
 ※4 幼児・学童身体状況調査 ※5 楽農生活室調べ ※6 消費流通課調べ ※7 県民モニター調査
 ※8 美しい兵庫指標県民意識調査 ※9 ひょうごのゆたかさ指標県民意識調査 ※10 体育保健課調べ
 ※11 健康増進課調べ ※12 内閣府調査

【評価欄】

- ◎：目標値を達成 8項目
 ○：直近値が計画策定時の現状値と比較して向上 15項目
 ▲：直近値が計画策定時の現状値と比較して進捗がみられない 13項目